資料提供日： 2025年6月2日（月）
送信元：六甲山観光株式会社
News Release

「神戸六甲ミーツ・アート 2025 beyond」

公募アーティスト15組決定！

～６月２日（月）からは前売パスポートを販売～

※公募アーティスト参考作品　クレジットは次項に記載

六甲山観光株式会社（本社：神戸市灘区　社長：妹尾昭孝）は、2025年8月23日（土）～11月30日（日）まで神戸・六甲山上を舞台とした現代アートの芸術祭「神戸六甲ミーツ・アート 2025 beyond」を開催します。

この度、公募アーティストが決定しましたのでお知らせします。公募作品は「環境への視座と思考」をテーマに、2025年2月1日（土）～4月6日（日）の期間で募集し、応募総数389点のプランが集まりました。その後、4月21日（月）に公募1次審査会が実施され、15組の入選者が決まりました。今後、入選者は作品プランを具体化し、8月1日（金）から随時現地での制作を行います。

また、招待アーティストと特別展示アーティストの11組が新たに加わりました。

なお、6月2日（月）から7月31日（木）までの期間は、各種鑑賞パスポートを前売価格にて販売いたします。

【公募アーティスト】（15組）　※敬称略・50音順

池ヶ谷陸＋林浩平＋上條悠、石島基輝、岡留優、風の環、北村拓也、松蔭中学校・高等学校　美術部、studio SHOKO NARITA、遠山之寛、ヘルマン・ファン・デン・マウイセンベルグ、堀園実、村上史明、山羊のメリーさん、山田愛、山田毅、林廻（rinne）

招待・特別展示アーティストも追加で11組決定！　※各アーティストの詳細は別紙をご確認ください。

【招待アーティスト】（10組）　※敬称略・50音順

Artist in Residence KOBE（AiRK）、乾久子、nl/rokko project、鍵井靖章、川原克己、C.A.P.（芸術と計画会議）、髙橋銑、チャール・ハルマンダル、Trivial Zero、やなぎみわ

【特別展示】 Michele De Lucchi（ミケーレ・デ・ルッキ）

公式サイト https://rokkomeetsart.jp/

■ 公募大賞

完成した作品を以て8月21日（木）に2次審査を行い、神戸六甲ミーツ・アート2025 beyond公募大賞を決定します。また、8月22日（金） の表彰式にて、神戸六甲ミーツ・アート2025 beyond 公募大賞の発表と表彰及びレセプションパーティーを行います。

【神戸六甲ミーツ・アート2025 beyond公募大賞】
・グランプリ 1組（賞金**150**万円）
・準グランプリ 1組（賞金**50**万円）
・奨励賞 **2**組（賞金**30**万円）

2024 年公募大賞発表の様子
水田雅也

■ 前売パスポート

【販売券種】 昼夜パス：３，７００円（当日４，０００円）
昼パス　：２，７００円（当日３，０００円）
夜パス　：１，７５０円（当日１，９００円）
【販売期間】 2025年6月2日（月）から7月31日（木）
【販売場所】 e+、チケットぴあ、asoview!、ローソンチケット、ArtSticker、HHcrosstowns、Triplabo、楽天トラベル観光体験

一項目作品画像：クレジット一覧

①池ヶ谷陸＋林浩平＋上條悠《入れ子の教会》2017 年、ベルリン　撮影：Masaya KATO②石島基輝《降り立つ時間−雨と靴》2024 年③岡留優《サードパーティー》2025 年、「2024 年度 京都市立芸術大学作品展」、京都市立芸術大学（京都）撮影：津村侑希④風の環⑤北村拓也《重奏の家》2025 年、撮影：新山源一郎⑥松蔭中学校・高等学校 美術部《FISH STORY2〜銀魚鉄道の夜》2024 年、神戸六甲ミーツ・アート 2024 beyond「六甲山芸術劇場」（神戸・六甲山）⑦studio SHOKO NARITA《Photo Receptor》2020 年　撮影：Takuma Matsuda⑧遠山之寛《タカシマ松戸事業所》2022 年（千葉県）撮影：中村絵⑨ヘルマン・ファン・デン・マウイセンベルグ《Seaweed Recording Studio (as part of collective Verstrengeld)》2024 年、「Open doen」、Club Solo（ブレダー） 撮影：Hussel Zhu⑩堀園実《ことばとは》2010 年、個展「ことばとは」、ガレリア・グラフィカ bis⑪村上史明《風景幻灯機》2016 年、県北芸術祭、旧美和中学校（茨城）⑫山羊のメリーさん《猫 Frontier》2023 年、「Frontier」、有隣堂⑬山田愛《真鏡》2024 年、YOSHINO 20 ART FESTIVAL（吉野山）撮影：Haruka Oka⑭山田毅（副産物産店）《The end is in the beginning and yet you go on.》2024 年、高島屋×京都市立芸術大学 「NEW VINTAGE 展」（京都府）撮影：山根香⑮林廻（rinne）《J39.5》2025 年、Milan Design Week 2025（ALCOVA 2025/Villa Borsani）AtMa inc. / Photo by Shunsuke Watanabe

■ 「神戸六甲ミーツ・アート 2025 beyond」 開催概要

【会　　期】 2025年8月23日（土）〜11月30日（日）

【開催時間】 10：00〜17：00　※営業日・時間は会場により一部異なります。

【会　　場】 ミュージアムエリア(ROKKO 森の音ミュージアム・六甲高山植物園・新池)、六甲ケーブル(六甲ケーブル下駅・山上駅)、天覧台、兵庫県立六甲山ビジターセンター（記念碑台）、六甲山サイレンスリゾート(旧六甲山ホテル)、トレイルエリア、みよし観音エリア、六甲ガーデンテラスエリア、風の教会エリア

【アーティスト】 Artist in Residence KOBE（AiRK）、池ヶ谷陸＋林浩平＋上條悠、イケミチコ、石島基輝、乾久子、岩崎貴宏、Winter/Hoerbelt（ヴィンター／ホルベルト）、植田麻由、nl/rokko project、岡田裕子、岡留優、長雪恵、小谷元彦、開発好明、鍵井靖章、風の環、川原克己、川俣正、北川太郎、北村拓也、C.A.P.（芸術と計画会議）、倉知朋之介、佐藤圭一、さとうりさ、さわひらき、松蔭中学校・高等学校 美術部、白水ロコ、studio SHOKO NARITA、須田悦弘、園田源二郎、髙野千聖、髙橋匡太、髙橋銑、髙橋瑠璃、田中望、チャール・ハルマンダル、遠山之寛、Trivial Zero、ナウィン・ラワンチャイクン、中村萌、奈良美智、西田秀己、パインツリークラブ、船井美佐、ヘルマン・ファン・デン・マウイセンベルグ、堀尾貞治×友井隆之、堀園実、三梨伸、村上史明、村松亮太郎/NAKED, INC.、山羊のメリーさん、やなぎみわ、山田愛、山田毅、林廻（rinne）、WA!moto.″Motoka Watanabe″

《特別展示》Michele De Lucchi（ミケーレ・デ・ルッキ）　（6月2日現在）

【料　　金】 大人＝中学生以上、小人＝4歳～小学生、3歳以下無料

種類	販売期間	昼夜パス（10:00－20:00）※夜はひかりの森開催日のみ		昼パス（10:00－17:00）		夜パス（ひかりの森開催日の17:00-20:00）	
		大人	小人	大人	小人	大人	小人
前売	6月2日～7月31日	3,700円	－	2,700円	－	1,750円	－
直前割	8月1日～8月22日	3,800円	－	2,800円	－	1,800円	－
Web 割	8月23日～11月30日	3,900円	－	2,900円	－	1,850円	－
山上窓口	8月23日～11月30日	4,000円	1,700円	3,000円	1,200円	1,900円	950円

※当芸術祭会期限定で上記に大人＋800円、小人＋400円で「シダレミュージアム 2025 エモい展」に割引入場できるセット券も販売。（8月23日（土）～11月24日（月・休）まで）

＜夜間イベント＞

「ひかりの森～夜の芸術散歩～」

夜間限定の光のアート作品が、ROKKO 森の音ミュージアムと六甲高山植物園を幻想的に彩ります。
昼夜パス、夜パスで入場が可能です。

【会　　期】 2025年9月20日（土）～11月30日（日）の土日祝
【開催時間】 17：00～20：00
【会　　場】 ROKKO 森の音ミュージアム、六甲高山植物園
【アーティスト】 鍵井靖章、髙橋匡太、村松亮太郎/NAKED, INC.

主催　　：六甲山観光株式会社、阪神電気鉄道株式会社
特別助成・協賛：神戸市、阪急阪神ホールディングス株式会社
助成・協力　：公益財団法人 神戸市民文化振興財団
総合ディレクター：高見澤清隆

【お問い合わせ先】
六甲山観光株式会社／神戸六甲ミーツ・アート事務局
TEL:078-891-0048（平日9:00～18:00）

公式 WEB サイト

出展決定　招待アーティスト

あーていすと いん れじでんす こうべ あーく
Artist in Residence KOBE（AiRK）

2022 年 4 月より、アーティストやクリエイターが集う文化の港として神戸を更に開いていく為、神戸市中央区北野エリアで運営を開始したアーティスト・イン・レジデンス。神戸市内の文化施設や団体と提携し、招聘されたアーティストを滞在施設として受け入れる「Partnership Program in Kobe」と、自主企画として国内外のアーティストを招聘し、神戸市内でワークショップやイベントを開催するなど、地域とアーティストとの交流を促進する「Program by AiRK」のふたつの活動を軸に、さらなる神戸文化の活性化を目指す。
運営メンバー：HAAYMM（小泉寛明、小泉亜由美、大泉愛子、遠藤豊、松下麻理、森山未來）

Photo: Junpei Iwamoto

いぬい ひさこ
乾 久子

1958 年静岡県生まれ・浜松市在住
東京学芸大学大学院修士課程終了

美術家
イメージからイメージへと広げるドローイングの制作を続けています。
2008 年くじびきドローイングワークショップを発案、全国各地で展開中です。ルールはとてもシンプル。くじを引いて出たお題を絵にし、自分も言葉を残すというもの。くじの誘惑に駆られて参加してみれば、引いた言葉がどんなに無茶振りでも、なんとか絵にしてしまう創造力が自分にもあったと気づきます。

会場風景、2018 年
「えらぶん、のこすん、つなげるん」
はじまりの美術館（猪苗代）
撮影：白土亮次

えぬえる・ろっこう ぷろじぇくと
n l /rokko project

2022 年 9 月　神戸市六甲山町にて結成・プロジェクトスタート
（主なメンバー　小泉寛明、ロク・ヤンセン）

nl/rokko project は、ROKKONOMAD を運営するチームメンバーにより結成された「これからの働き方」を探求するリサーチグループです。オランダ王国大使館の協力のもと、オランダと日本をつなぎ、社会問題にチャレンジするプロジェクト「nl/local project – オランダとつくる、私たちの未来–」のメンバーの一つとして活動しています。

Photo：nl/rokko project

出展決定　招待アーティスト

かぎいやすあき
鍵井靖章

1971 年　兵庫県川西市出身・神奈川県鎌倉市在住
1993 年　龍谷大学法学部法律学科卒業

1971 年、兵庫県生まれ。水中写真家。1993 年よりオーストラリア、伊豆、モルディブに拠点を移し、水中撮影に励む。1998 年に帰国。フリーランスフォトグラファーとして独立。自然のリズムに寄り添い、生き物に出来るだけストレスを与えないような撮影スタイルを心がける。多彩な視点と色使いが人気で、大胆かつグラフィカルな水中写真で多くの人々を魅了する。

《shrine of blue》2023 年、
Kawanishi Art Project With 2023、
多田神社（兵庫）

かわはらかつみ
川原克己

1980 年　鹿児島県大崎町出身

お笑いコンビ『天竺鼠』のボケ担当。
芸人として漫才やコントで舞台に立ち、 単独ライブのチケットは即完売。
お笑いのエッセンスを混えた独特な油絵を描くことや、
空間そのものをデザインすることも得意する。
これまでに開催した絵画の個展では総動員数 2 万人を超える。
物語 17 編を描いた絵本 「ららら」や「ぬり絵本」なども出版。
アートだけではなく、映像監督（映画・CM・MV 等）など、クリエイターとしての幅広い活動に力を注ぐ。

《チョビ2LDK》

きゃっぷ　げいじゅつ　けいかくかいぎ
C.A.P.（芸術と計画会議）

1994 年　神戸で結成

杉山知子を含む 11 名のアーティストで 1994 年に発足。1995 年、フランスのアーティスト達からの震災義援金をきっかけに市民参画のプログラムを行った。1999 年には旧神戸移住センターを利用して「CAP HOUSE～190 日間の芸術的実験」を実施。同建物は 2009 年に市立海外移住と文化の交流センターとなり、C.A.P.は現在指定管理者として活動を続け、また市民の寄付で海外のアートグループとの活動も活発。

《絵を持って彷徨う in 神戸北野》2024 年、
ちょっとそこまで 30th、神戸北野
撮影：川本まい

たかはしせん
髙橋銑

髙橋銑（たかはし・せん）は、1992 年東京都に生まれ、東京藝術大学大学院 美術研究科彫刻専攻修士課程を 2021 年に修了。近現代彫刻の保存修復に携わりながら、自身もアーティストとして作品制作を行う。保存修復の知識や経験を起点とし、彫刻、映像、インスタレーションなど多岐にわたる作品を展開している。主な展覧会に「リニューアルオープン記念特別展 Before/After」広島市現代美術館（2023）「これらの時間についての夢」宇都宮美術館（2022）、「ArtistProject#2.06 髙橋銑」埼玉近代美術館（2022）「聞かれなかった声」LEESAYA(2023)など。

《Cast and Rot No.42》2023
Photo by Ichiro Mishima, Courtesy of LEESAYA

チャール・ハルマンダル

1992 年 トルコ出身・東京在住

2016 年 SMFA at Tufts 大学（米国・ボストン）卒業
2023 年 東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻修士修了
2023 年 東京藝術大学大学院映像研究科映像メディア学専攻博士課程入学

イスタンブール出身のアーティスト。感情、知覚、想像力、身体性を探求する手描きのノンナラティブ・アニメーションを制作している。最新作の短編アニメーション『Vision』は、世界 40 以上の国際映画祭で上映され、10 の賞を受賞。作品では身体の内側を抽象的にデジタルアニメーションで表現している。現在は抽象的なアニメーションと内的な視覚思考との関係性について実践研究中。

《Vision》（映像スチル）、2023 年

とりびある ぜ ろ
Trivial Zero

2012 年 結成
フィンランド、トゥルク出身・在住

トリビアル・ゼロはトゥルク（フィンランド）を拠点とするビジュアル・アーティスト、イエンヌ・マイルドとサーミ・ピッカライネンのデュオです。ビデオ、サウンド、彫刻、パフォーマンス、人工知能などを通してアートとサイエンスを融合させ、20 年以上共に活動してきました。私たちの作品は、フィンランド国内だけでなく、国際的に展示されています。

「※組み立てが必要な場合があります」2019 年、
MUU-Cabel（フィンランド、ヘルシンキ）

イエンヌ・マイルド
2022 年 トゥルクアカデミーオブファインアーツ卒業 BA

サーミ・ピッカライネン
2021 年 トゥルクアカデミーオブファインアーツ卒業 BA

やなぎみわ

兵庫県神戸市生まれ、京都府在住

美術作家、演出家。
1993 年にエレベーターガールをテーマにした作品で初個展、以後国内外で個展多数。2009 年、第 53 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本代表作家。2011 年より演劇活動を開始し、美術館や劇場で公演、北米ツアーも果たす。
2019 年個展「神話機械」が美術館巡回。2021 年台湾オペラ「アフロディーテ～阿婆蘭～」を作演出。2016 年より台湾製の特殊車両による野外巡礼劇を続け、兵庫津では海上公演が実現した。

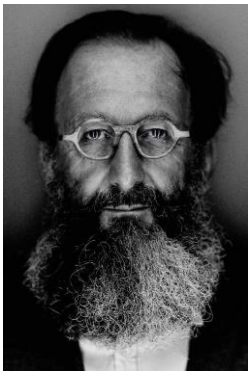
《Wind swept women》
2009 年 第 53 回ヴェネチア・ビエンナーレ
国際美術展 日本館
撮影：木村三晴

■ 特別展示

六甲山サイレンスリゾート（旧六甲山ホテル）では、同館の修復・リニューアルをディレクションしたミケーレ・デ・ルッキによるアート作品を特別出展します。

Michele De Lucchi（ミケーレ・デ・ルッキ）

建築家、デザイナー、アーティスト。アルキミアとメンフィスの中心メンバーで、1988 年から 2002 年までオリベッティのデザイン・ディレクターを務める。
1987 年にコンパッソ・ドーロ賞を受賞。数多い照明の中で、世界的に販売総数第一位とされるアルテミデのランプ「トロメオ」は代表作のひとつ。イタリアやヨーロッパの有名企業の家具デザインを担い、世界各地で建築プロジェクトを実現。現在も文化施設、オフィスビル、工業施設、邸宅など、世界中の建築プロジェクトを手がける。



資料に関するお問い合わせ

六甲山観光株式会社／神戸六甲ミーツ・アート事務局
TEL：078-891-0048（平日 9：00～18：00）